



月華古吠

げっかみだれぞきー

あらすじ

罰ゲーム一日目。
ラゴウ執政官との勝負に無様にも敗北したエステリーゼ。
そんな彼女を面白がるように執政官は再び「慈悲のゲーム」を提案する。

その戯れに勝てればメテオラ・ブラスティアを起動し雨を降らせようと言う、
卑怯な戦法に破れたエステリーゼだったが仲間の事を思えば
どんな卑劣な手段が使われると分かっていたとしても
そのゲームを受けない訳にはいかなかった。

しかし、執政官は既にエステリーゼの性的弱点を把握しており
彼女は前回よりも簡単に敗北してしまう。
結果、追い込まれるエステリーゼに更なる罰が待ち受けていた。

扉が開き屈強な男達がぞろぞろと押し入ってくる、
エステリーゼの情けない負け姿に興奮し男根をイラつかせていた。

敗北した彼女は自らの不甲斐なさを嘆き、憎み、心中仲間に許しを請う。
そして汚れた身体を捧げることが罪を償う事と自信に言い聞かせ、
男たちの慰みものへととなり果てていく。



いやっ……!
んっ……ああ!

へははは!

ひひひひ!



んぎゅー!
あぐっ……う!



おら!
おらあっ!

んぎゅー!
んぐう!

んっ!
んんう!

ひははははは!

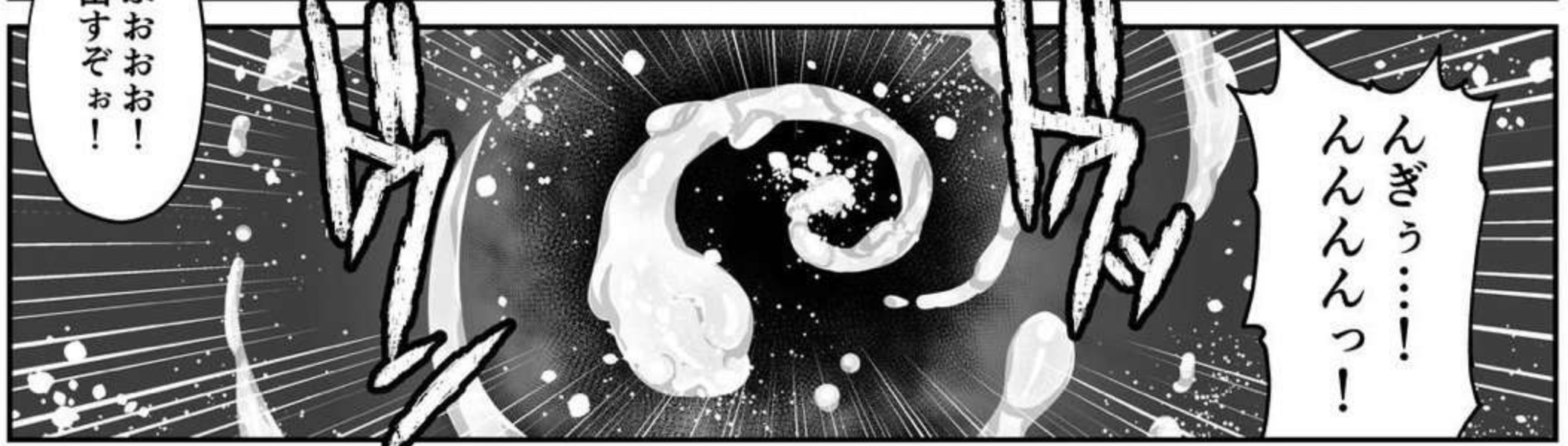


んっ！んっ！
んっ！

んっ……く！
んっ！んっ！

んっ！

ふおおお！
出すぞお！



んぎょう……！
んんんんっ！



だははは！
まだ離すなよ！

んっ……っ！

おっ……っ
んんん……ぐうう





あひっ………!!
あっ……えあ!

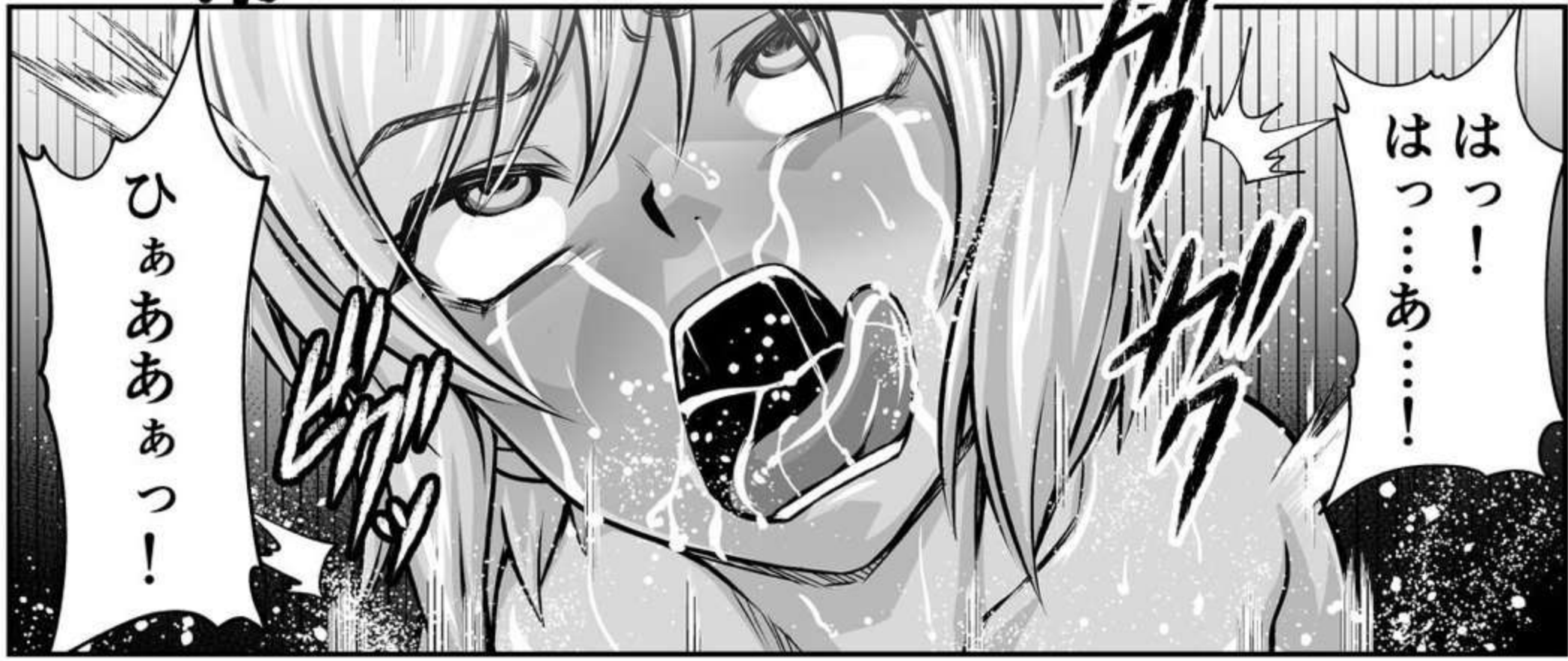
はっ……はあ!
あああっ!



ふん!ふん!
ふん!ふん!

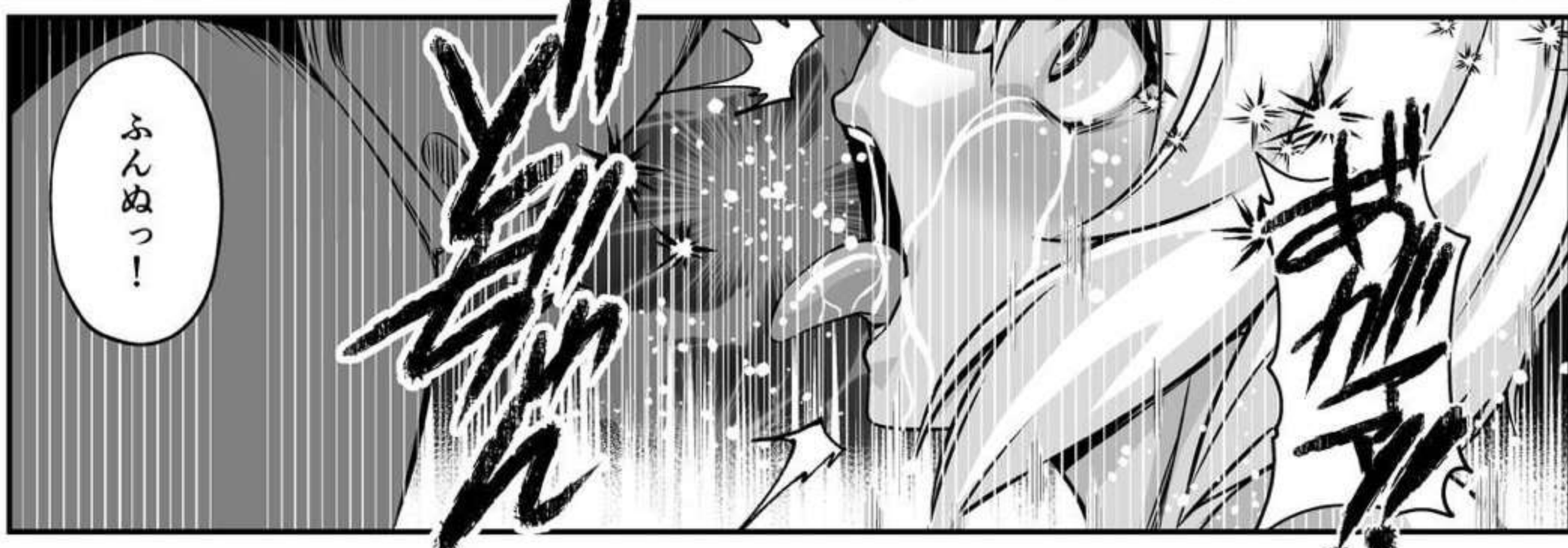
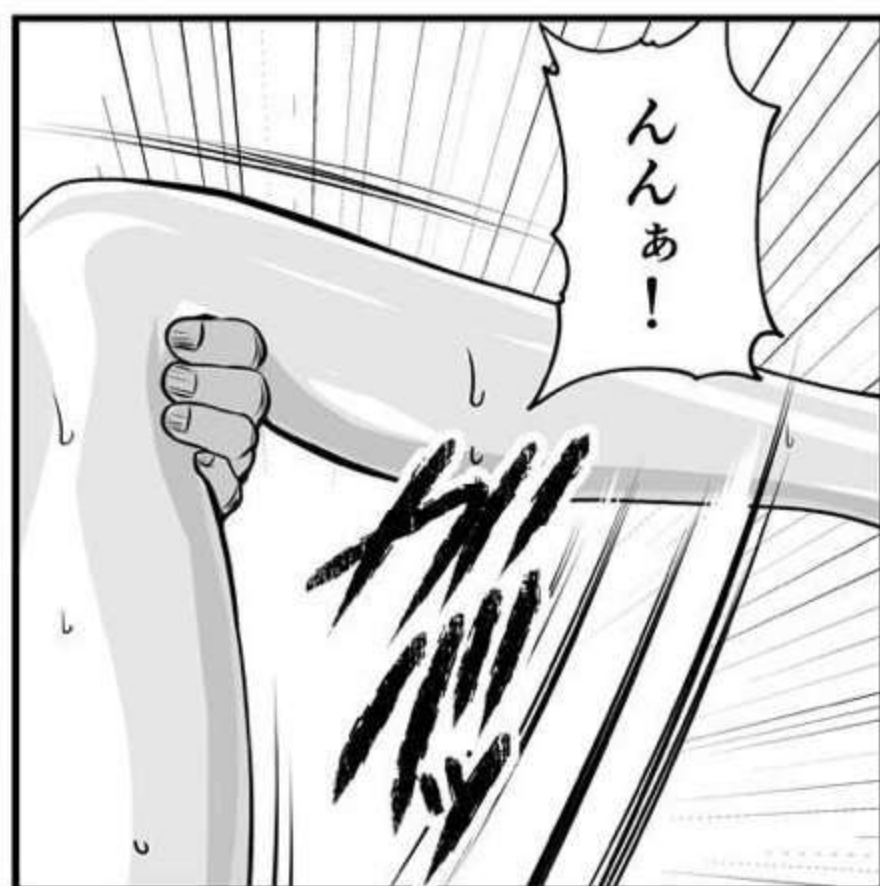
あぐっ!
あっ!あっ!

あああ!



はっ!
はっ……あ………!

ひああああっ!





いやああ...
ザーメン...
顔にい...!

ギョッ

え...ああ...!
ああああ...っ!

ギョッ



うあああ!
また...出ちゃ...!



出すぞ!
中に出るぞ!

や...やだ!
もう...
イきたくない...!

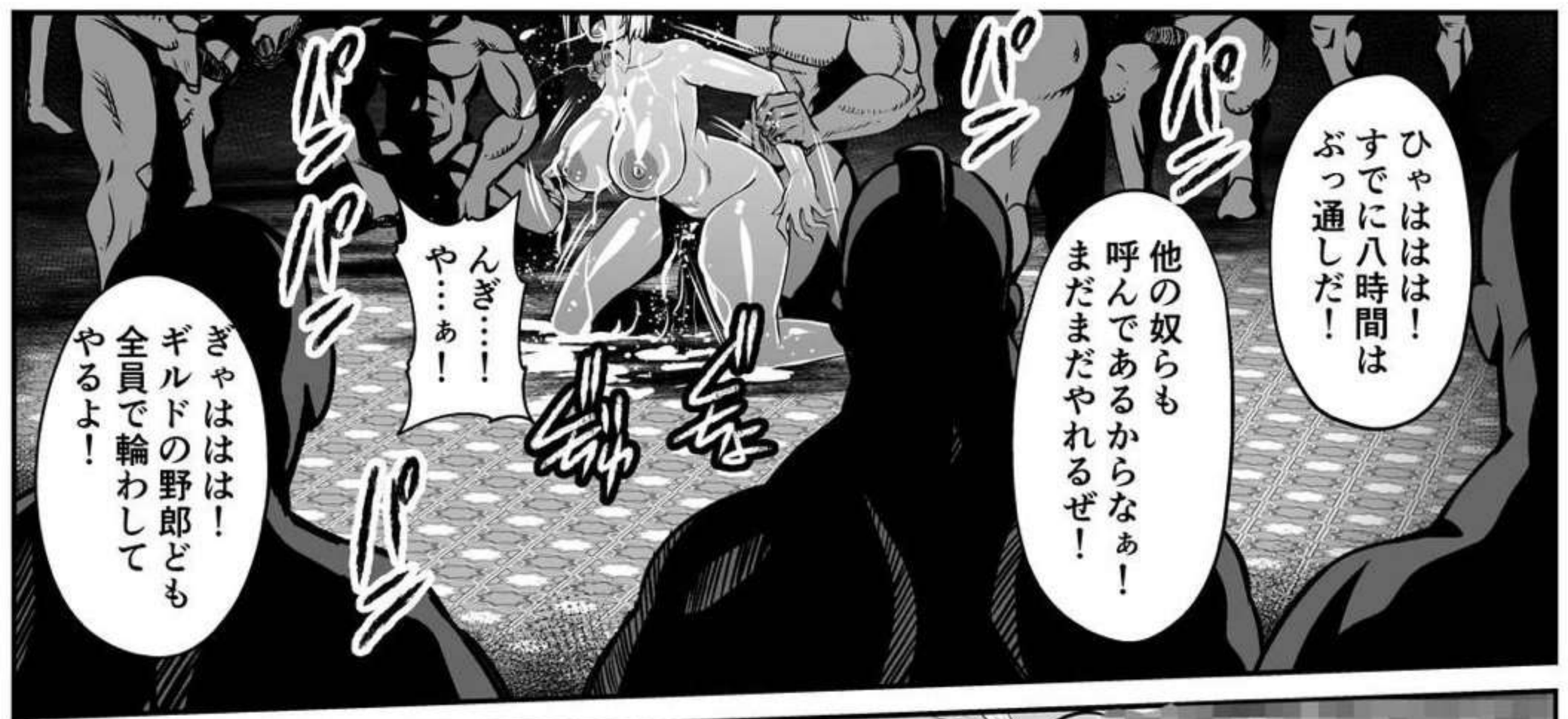
知るか!
マヌケ!





おおっ……!!
おおっ! あっ!

か……っあ!
はっ……!!



ひやははは!
すでに八時間は
ぶっ通しだ!

他の奴らも
呼んであるからなあ!
まだまだやれるぜ!

んぎ……!
や……あ!

ぎゃははは!
ギルドの野郎ども
全員で輪わして
やるよ!



らめ……!
だめ……!

あああっ!



ひえへへへ!

あつ...!
ああ!

んぐ...!
んああつ!



そりや!
そりや!

んっ...あ!

ああああつ!



あぐっ...!
うっ...! うああ!

ふっ...うっ!
ふ...んうう!

いく...!
いく!
いくいくいく!

いつ…ちや…!
あああつ!

らららー!

ららららー!

らららららー!





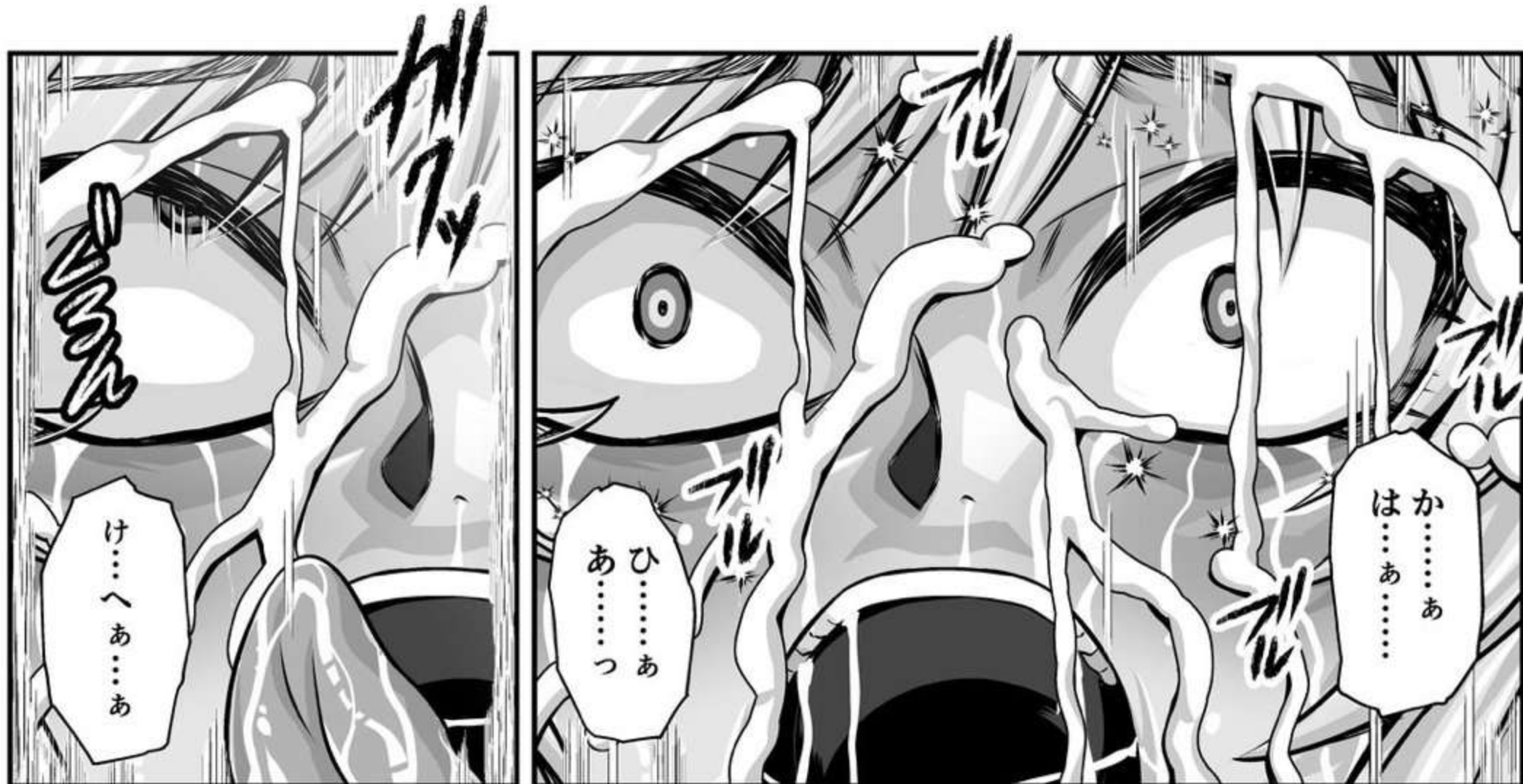
あっ...ああ...あ

あ...あああっ...!



んひあ...あ

はあ...あ...あ
あ...あ...あ



け……へあ……あ

あひ……あ
つあ

か……あ
は……あ……あ



へ……え……あ
んえ……あ

ひゅー……
かひゅー……

次どいつだあ!!

俺だ!
俺っ!

後がつつかえてんだ!
早くしろ!

ぶははは!
お前さっき
やっただろうが!



罰ゲーム
一日目
夜



ラゴウ執政官に
敗北したわたしは……
凌辱の罰ゲームを
受けた……

んく……っ

うう……
ふ、う……

永遠にも思える
長時間のセックスと
望まぬ絶頂により
わたしの身体には……



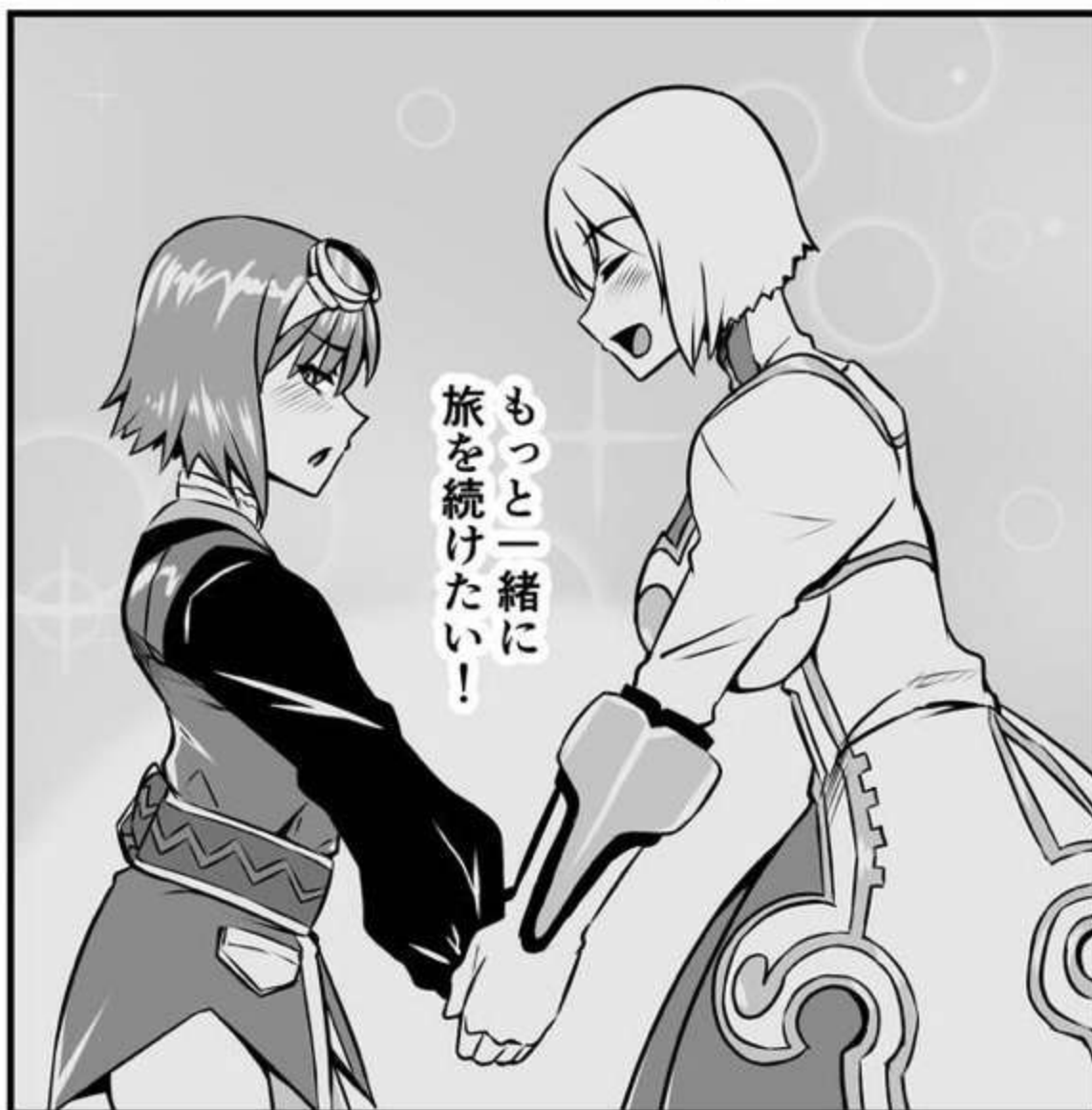
絶頂の余韻の影響で
激しい痙攣が続いていた……

これまで
してきたセックスは
成り行きとはいえ
自分自身も楽しんで
行為に及んでいた……
けれど……

ひう……
ひっく……う

は……
え……あ
かは……あ

この罰ゲームでのセックスと
自分の意思に反して
幾度となくイき続ける
長い時間は……
仲間が危険な魔物討伐に
出向いているという
罪悪感とともに
わたしの心と身体を
壊していく……





そうだ!
こんなことで
負けてられない!



そのためには
何とかこの部屋から
脱出しないと!

皆ともっと
旅がしたい!



その後すぐに
メテオラブラスティアを制御する!
皆が早く帰ってこられるように!



そしてこの街を支配する
ラゴウ執政官を捕まえないと!



皆!



待ってで!



…ん？

まずは
どうにかして
この部屋から…

よお！
随分楽しんでた
みてえじゃねえか！



アッ
アッ
アッ



今帰って来たところだ!
俺にもやらせろよ!
や、やめ...!
離してください!
今はそれどころじゃ...!



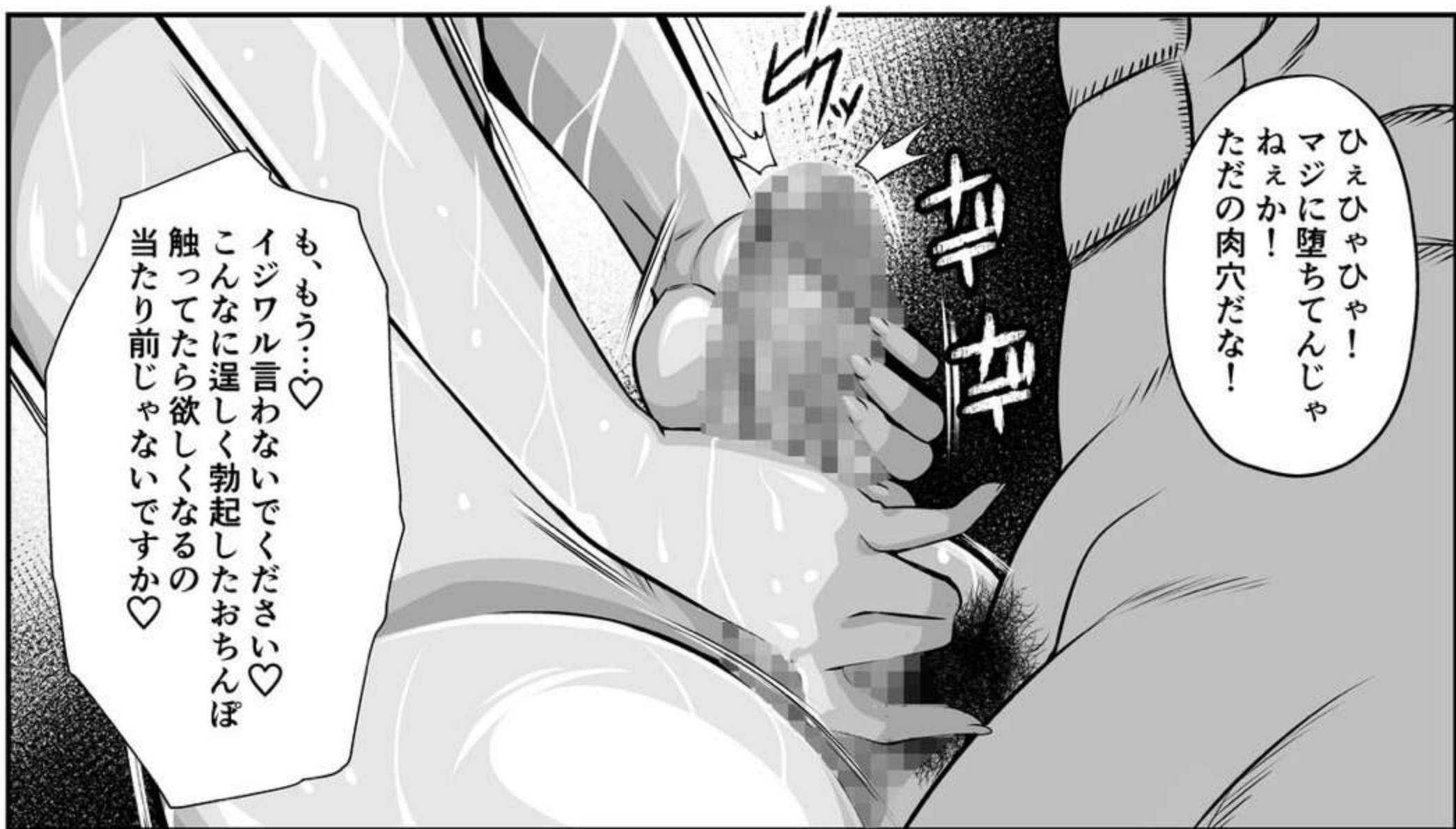
執政官の野郎
面倒な仕事
押し付けやがってよお!
溜まってんだ!俺あ!

扉が開いてる!



この人の隙を付ければ
ここから出て
メテオラブラステイアを
探しに行ける...!
でも...今わたしが出来る
方法なんて...

ううん...
迷っている暇はない!
一刻も早くここから出ないと!





あなたのおちんぼ
もうこんなに硬くなっています♡

んはあ♡♡♡♡♡

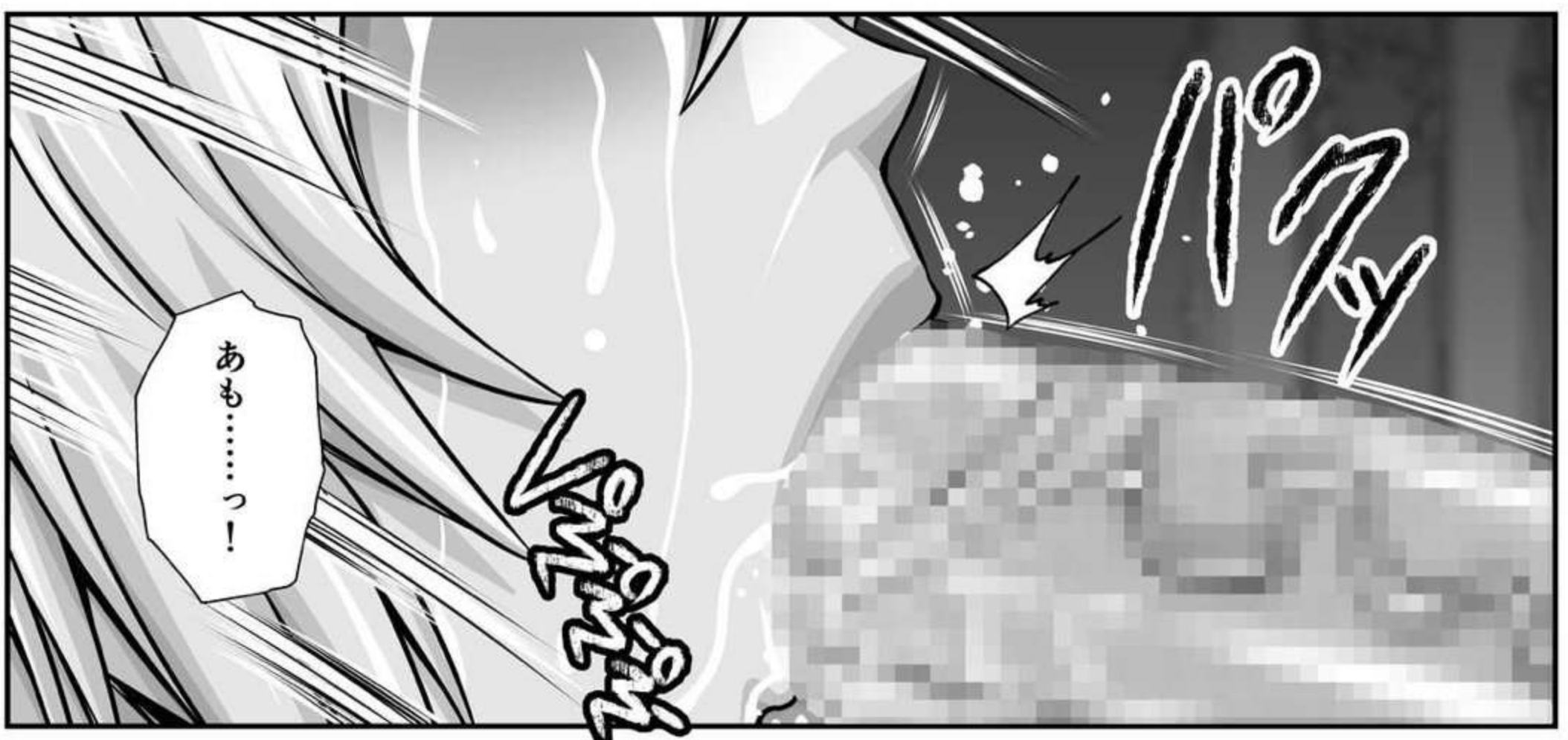
ツツツ
ツツツ

もももも



この匂いを
嗅いだだけで
イっちゃいそうです♡

ツツツ
ツツツ



そうだ
緩急をつけて
飽きさせるな

んぐ……っ!
ふあい……んっ!

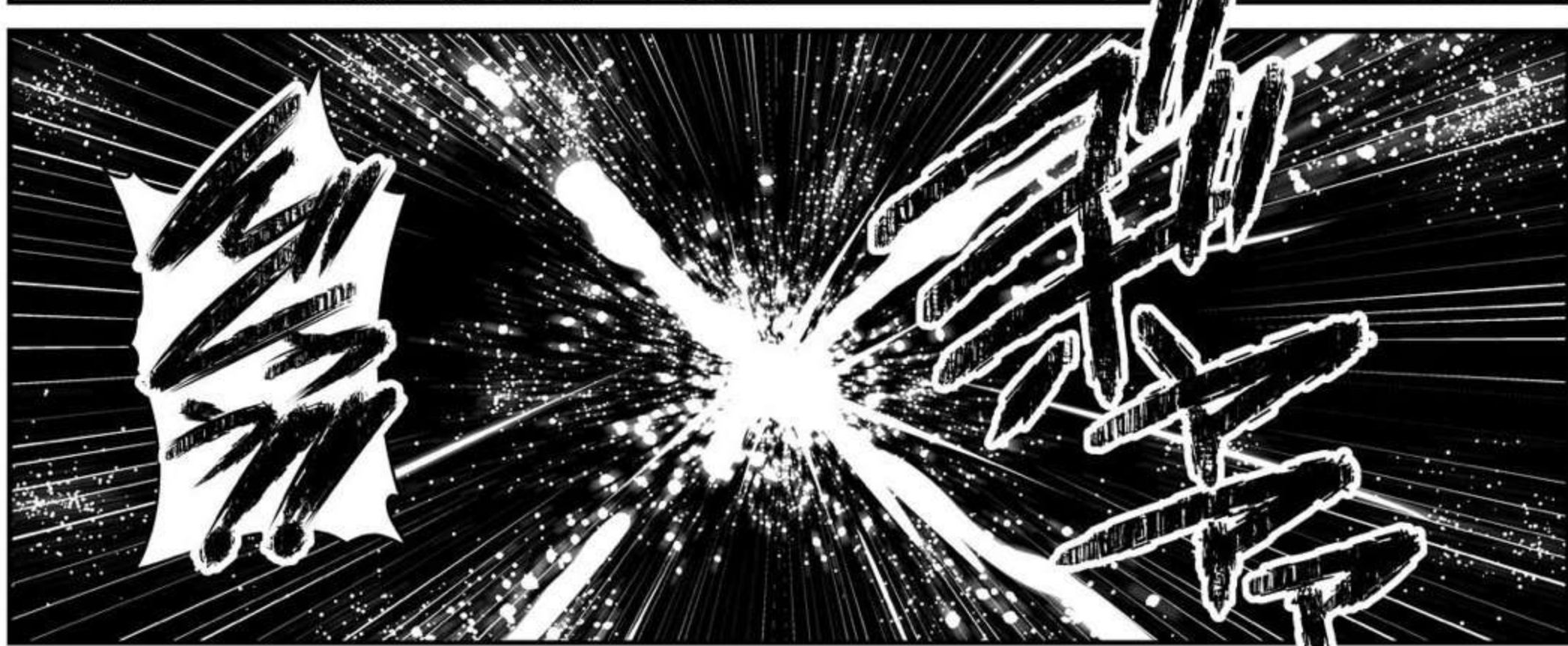
んっ!
んんっ!

おら!
喉奥も使え!

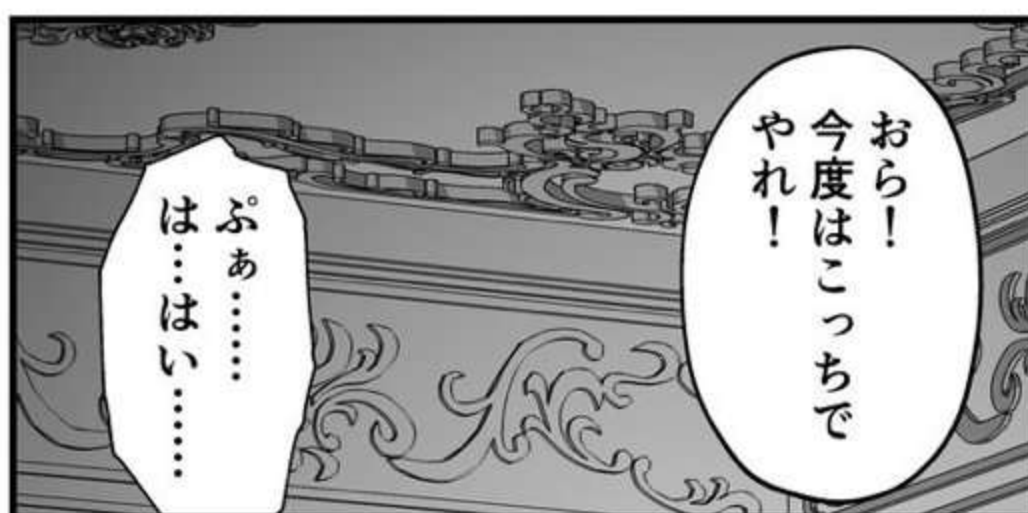
んぶうっ!

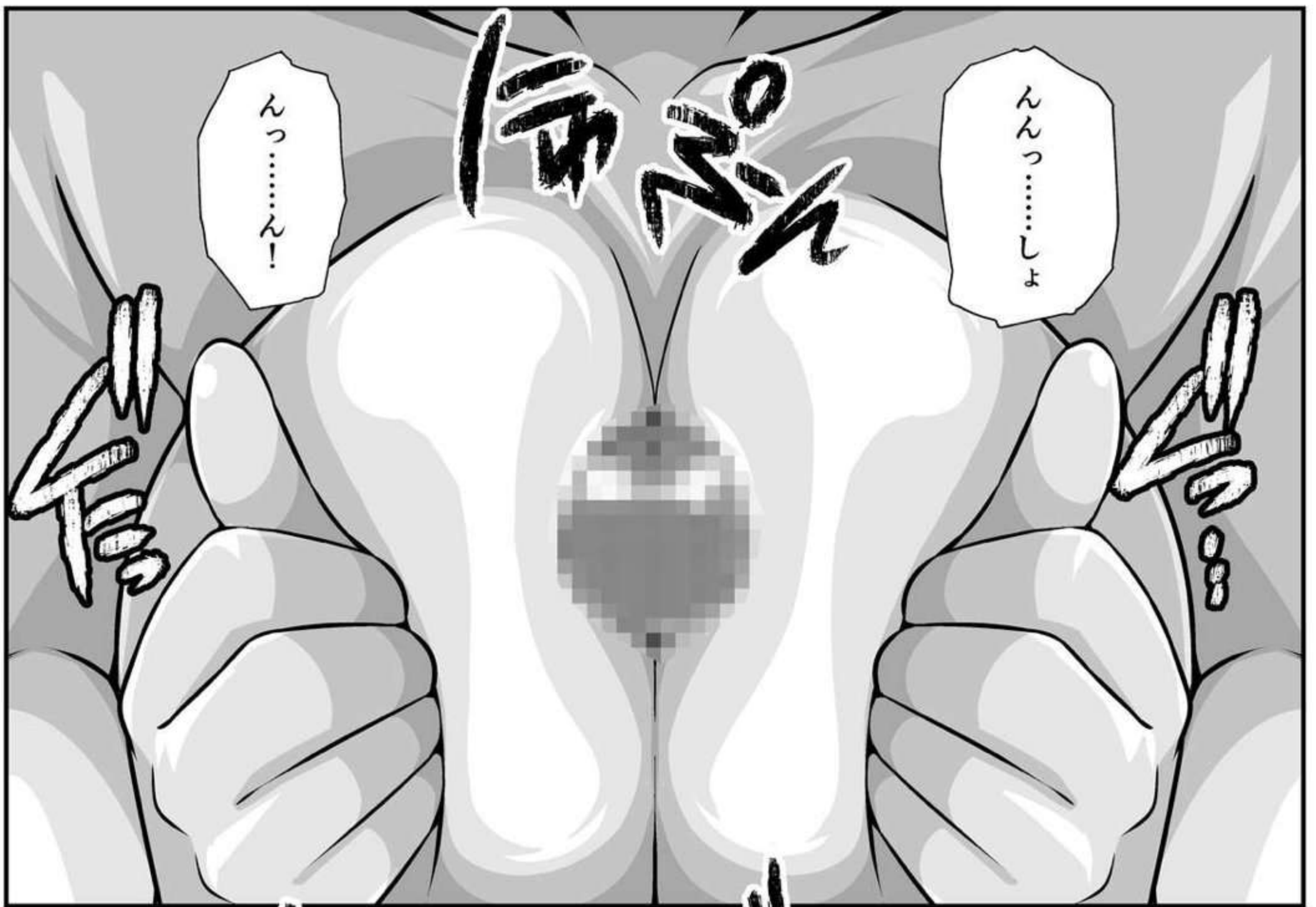
ぶっ!
ぶっ!
ぶっ!

ぶぼ!
ぶりゅぶ!











出してやる！
どこがいい！
言え！

は…はい！
ありがとうございます！

顔がいいです！
わたしのはしたない淫らな顔に
ザーメンパックしてください！
あなたのおちんぽミルク
ぶっかけてください！



あっ…！
すごっ…！

きたあ！
濃厚ザーメン！
いっぱい…ぷあ！







…なるほど
あの小娘は
通常の女とは違う
体質をしている…

それは大気中の
エアルに
深い関係がある……



くくく！
お前の新たな発見！
なかなか面白い内容だ

私…と言うより
同僚が見つけた
それを解析した
結果でございます

ほう…
その同僚にも
会ってみたいものだな
お互いに良い協力関係を
築けそうだ

伝えておきましょう
奴も喜んで力を
お貸ししますよ



それと……
この「試作品」の
ヒノブラスティアに
ついてだが……

報告書によると
あの小娘がザーフィアス城にいたところに
装着させ
その影響で今の乱れた淫売になり果てた
ようだな

ええ…
さらに小娘の特異な体質も
相まって予想外の結果も
見受けられます



検査ではあの身体は妊娠しておりません

現段階では不明ですが通常の性交では受精不可能な身体のようなです

何？
しかし無様にも母乳を垂れ流しているではないか

ですがエアルと強い結びつきがある
特異体質とヒプロブラスティアで
刺激された快楽神経に乳房は肥大化し
乳腺に何らかの影響を与えており
その結果母乳をまき散らす
売女になり下がったのでしよう

なるほど……
それで敏感で巨大な乳房へと変容
男に媚びを売るのに適した身体……
愚かな性奴隷へなり果てたのか！



ますます
利用価値のある小娘だ……

しかし……
あの女が特異とはいえ
それほどまでに
強力なブラスティアを作り

さらに新たな「試作品」を
作り上げた理由は何なのだ？

……

くくく……
お恥ずかしい
ただの趣味でございます……



くくく！
趣味だど？面白い！
詳しく聞きたいものだな

執政官殿 オツ！

大変でさあ！

ええい！何だ！
ノックもなしに
騒々しい！

それが…！

……いえいえ
とても自慢出来る
ようなものでは……



何イツ!?あの小娘が
逃げ出しただとオ!

すぐに探し出せ!
あの女にはまだ
利用価値がある!


見張りも満足に
出来んのか!
これだから下民の
ギルド連中はっ!



残念ながら
今はまだ全てを
お教えすることは
出来ませんよ執政官殿……


「どちら」に付くか
見極めている段階ですからな
ラゴウ執政官か……
それとも「あのお方」か……
くくく!

ふん……
だが丁度いい




まあ良い機会では
ありませんか
「試作品」の実験だと
思えば

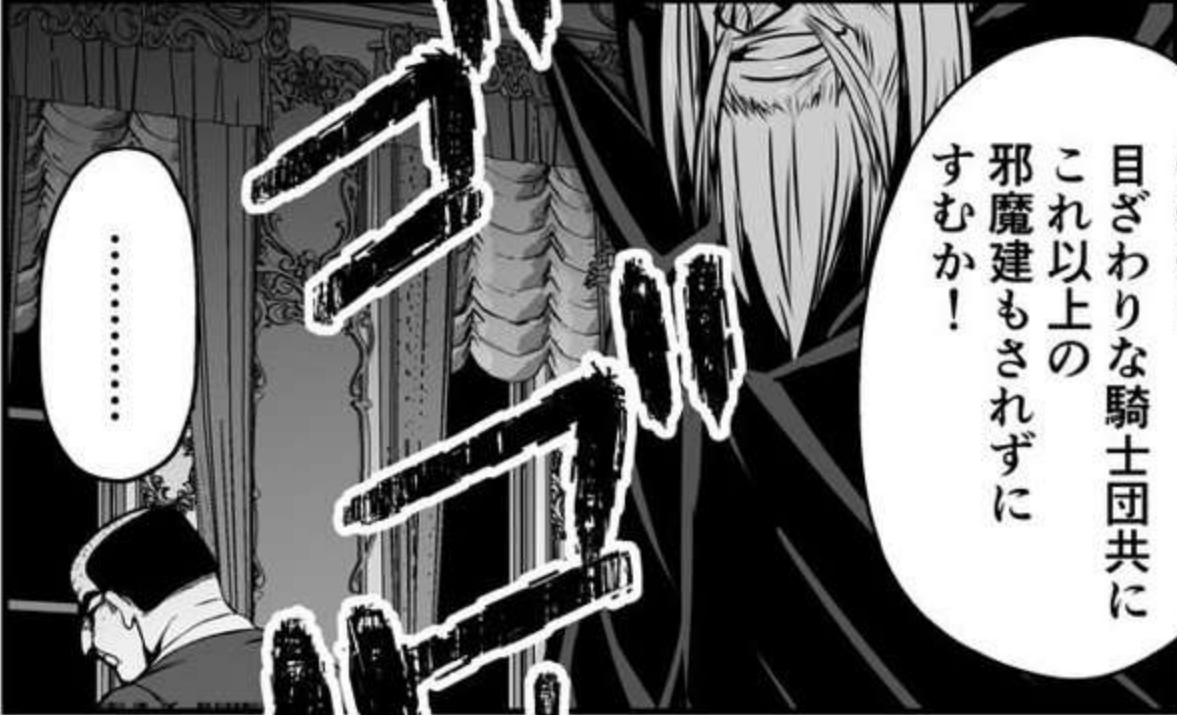
む……!!
なるほど……




まだ完成形ではありませんが
ヒプノブラスティアを使えば
一時的にでも従順な下僕に
なりましょう



確かに……
これで生意気な反抗心を
抑える事に成功すれば
計画を早く進めることが
できる!



く……く……!!
目ざわりな騎士団共に
これ以上の
邪魔もされずに
すむか!



まだまだ利用させて
いただきますよ!
エステリーゼ様!
フハハハハハハッ!

